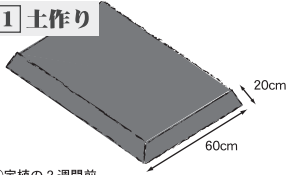


本紙はご自由にお持ち帰り下さい

ローゼルの上手な作り方



1 土作り



①定植の2週間前
日当たりと水はけのよい土地に石灰をまいてよく耕します。(1㎡あたり150g)
②定植の1週間前
堆肥とカルシウム入り肥料を混ぜて耕し畝をつくりします。(堆肥4ℓ・肥料150g)

3 管理

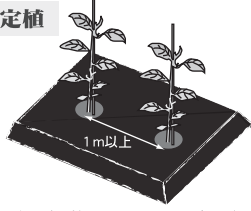
※ローゼルは畝の長さが一定の短さになると花芽をつける短日植物です。そのため、秋以降に自然の日光の長さ以上に人工の電灯が当たる環境で育てていると、日の長さに反応できず花芽をつけないことがあります。

④9月になったら状況に応じて枝数を調整します。多くの枝が出ていると開花数が増え、収穫果実の1つ1つが非常に小さくなってしまいます。そこで、草丈が1m以上になったら摘芯をしましょう。鉢植えの場合は5本程度、露地植えの場合は10本程度の勢いの良い枝を残し、余分な枝は根元から切り取ります。



⑤10月以降はできるだけ暖かい場所で栽培しましょう。確実に実をつけさせるには12~13℃以上の環境が必要です。開花のために10月以降は室内に入れるか、人工的に日照をカットする短日処理を施せば、より花芽がつきやすくなります。

2 定植

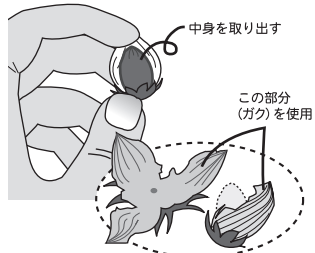


③4月下旬以降に植えつけます。ローゼルは気温の上昇と共にぐんぐん伸びるので草丈が伸びてきたら支柱を立てましょう。生育旺盛なので、肥料は月に2回ほど株元に有機質肥料を与えてください。

4 収穫



⑥9月以降、花後に紅紫色の実が厚く肥大してきたら収穫です。収穫した実は、皮(ガク)を開いて中身を取り除いておきましょう。



⑦ガクはネットなどに入れて風通しの良い場所に吊るし乾燥させましょう。これにお湯を注ぐだけでハイビスカスターとして楽しめます。

野菜の育て方6-2

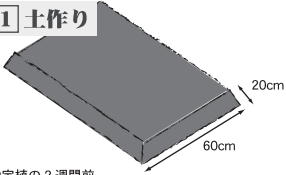
カネコ種苗株式会社

本紙はご自由にお持ち帰り下さい

ローゼルの上手な作り方



1 土作り



①定植の2週間前
日当たりと水はけのよい土地に石灰をまいてよく耕します。(1㎡あたり150g)
②定植の1週間前
堆肥とカルシウム入り肥料を混ぜて耕し畝をつくりします。(堆肥4ℓ・肥料150g)

3 管理

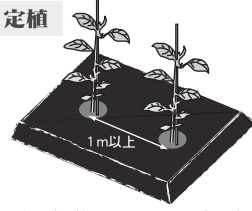
※ローゼルは畝の長さが一定の短さになると花芽をつける短日植物です。そのため、秋以降に自然の日光の長さ以上に人工の電灯が当たる環境で育てていると、日の長さに反応できず花芽をつけないことがあります。

④9月になったら状況に応じて枝数を調整します。多くの枝が出ていると開花数が増え、収穫果実の1つ1つが非常に小さくなってしまいます。そこで、草丈が1m以上になったら摘芯をしましょう。鉢植えの場合は5本程度、露地植えの場合は10本程度の勢いの良い枝を残し、余分な枝は根元から切り取ります。



⑤10月以降はできるだけ暖かい場所で栽培しましょう。確実に実をつけさせるには12~13℃以上の環境が必要です。開花のために10月以降は室内に入れるか、人工的に日照をカットする短日処理を施せば、より花芽がつきやすくなります。

2 定植

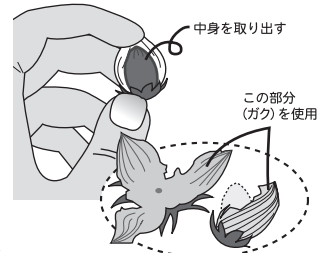


③4月下旬以降に植えつけます。ローゼルは気温の上昇と共にぐんぐん伸びるので草丈が伸びてきたら支柱を立てましょう。生育旺盛なので、肥料は月に2回ほど株元に有機質肥料を与えてください。

4 収穫



⑥9月以降、花後に紅紫色の実が厚く肥大してきたら収穫です。収穫した実は、皮(ガク)を開いて中身を取り除いておきましょう。



⑦ガクはネットなどに入れて風通しの良い場所に吊るし乾燥させましょう。これにお湯を注ぐだけでハイビスカスターとして楽しめます。

野菜の育て方6-2

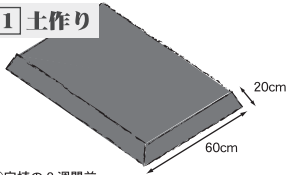
カネコ種苗株式会社

本紙はご自由にお持ち帰り下さい

ローゼルの上手な作り方



1 土作り



①定植の2週間前
日当たりと水はけのよい土地に石灰をまいてよく耕します。(1㎡あたり150g)
②定植の1週間前
堆肥とカルシウム入り肥料を混ぜて耕し畝をつくりします。(堆肥4ℓ・肥料150g)

3 管理

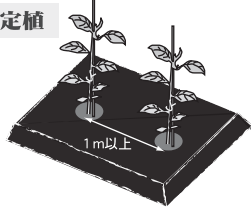
※ローゼルは畝の長さが一定の短さになると花芽をつける短日植物です。そのため、秋以降に自然の日光の長さ以上に人工の電灯が当たる環境で育てていると、日の長さに反応できず花芽をつけないことがあります。

④9月になったら状況に応じて枝数を調整します。多くの枝が出ていると開花数が増え、収穫果実の1つ1つが非常に小さくなってしまいます。そこで、草丈が1m以上になったら摘芯をしましょう。鉢植えの場合は5本程度、露地植えの場合は10本程度の勢いの良い枝を残し、余分な枝は根元から切り取ります。



⑤10月以降はできるだけ暖かい場所で栽培しましょう。確実に実をつけさせるには12~13℃以上の環境が必要です。開花のために10月以降は室内に入れるか、人工的に日照をカットする短日処理を施せば、より花芽がつきやすくなります。

2 定植

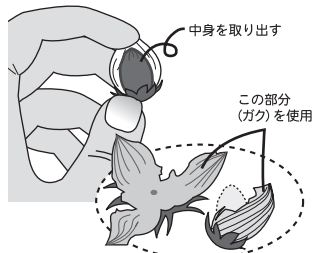


③4月下旬以降に植えつけます。ローゼルは気温の上昇と共にぐんぐん伸びるので草丈が伸びてきたら支柱を立てましょう。生育旺盛なので、肥料は月に2回ほど株元に有機質肥料を与えてください。

4 収穫



⑥9月以降、花後に紅紫色の実が厚く肥大してきたら収穫です。収穫した実は、皮(ガク)を開いて中身を取り除いておきましょう。



⑦ガクはネットなどに入れて風通しの良い場所に吊るし乾燥させましょう。これにお湯を注ぐだけでハイビスカスターとして楽しめます。

野菜の育て方6-2

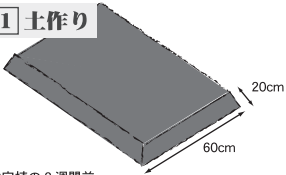
カネコ種苗株式会社

本紙はご自由にお持ち帰り下さい

ローゼルの上手な作り方



1 土作り



①定植の2週間前
日当たりと水はけのよい土地に石灰をまいてよく耕します。(1㎡あたり150g)
②定植の1週間前
堆肥とカルシウム入り肥料を混ぜて耕し畝をつくりします。(堆肥4ℓ・肥料150g)

3 管理

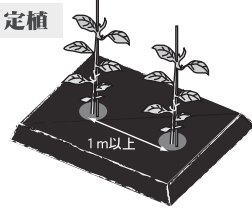
※ローゼルは畝の長さが一定の短さになると花芽をつける短日植物です。そのため、秋以降に自然の日光の長さ以上に人工の電灯が当たる環境で育てていると、日の長さに反応できず花芽をつけないことがあります。

④9月になったら状況に応じて枝数を調整します。多くの枝が出ていると開花数が増え、収穫果実の1つ1つが非常に小さくなってしまいます。そこで、草丈が1m以上になったら摘芯をしましょう。鉢植えの場合は5本程度、露地植えの場合は10本程度の勢いの良い枝を残し、余分な枝は根元から切り取ります。



⑤10月以降はできるだけ暖かい場所で栽培しましょう。確実に実をつけさせるには12~13℃以上の環境が必要です。開花のために10月以降は室内に入れるか、人工的に日照をカットする短日処理を施せば、より花芽がつきやすくなります。

2 定植

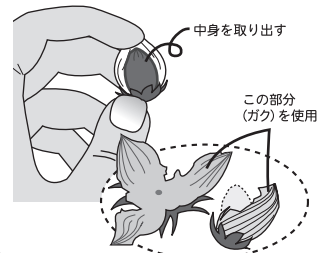


③4月下旬以降に植えつけます。ローゼルは気温の上昇と共にぐんぐん伸びるので草丈が伸びてきたら支柱を立てましょう。生育旺盛なので、肥料は月に2回ほど株元に有機質肥料を与えてください。

4 収穫



⑥9月以降、花後に紅紫色の実が厚く肥大してきたら収穫です。収穫した実は、皮(ガク)を開いて中身を取り除いておきましょう。



⑦ガクはネットなどに入れて風通しの良い場所に吊るし乾燥させましょう。これにお湯を注ぐだけでハイビスカスターとして楽しめます。

野菜の育て方6-2

カネコ種苗株式会社

野菜の育て方6-2 ローゼル (表面)